

針			方 策	平成28年度 第1回 点検・評価			平成28年度 第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 「総合的な学習の時間」に、主体的に取り組んだと自己評価する生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心・能力に応じて自主的に取り組めるよう複数のコースを用意し、支援、助言を行う。 ・毎時間、意識的に言語活動を位置づけるとともに、授業アンケートによってその効果を検証する。また、効果的な言語活動や学び合い等について校内研修を行う。 	C	C	○複数のコースを設定。自主的な取り組みができるよう支援していく。今後はその成果が発表できるような場面をつくっていく。	C	C	○生徒の学力に応じた配慮がなお一層求められる。各種検定において、受験可能なレベルへの努力目標など細かに設定していくことを検討する。
		② 生徒の主体的な学習活動を促すため、授業で言語活動や学び合いを計画的に実施する教員が70%以上いる。		○双方向的な視点に立った授業が展開されている。しかし、生徒の特性もあり、生徒同士が学び合う環境を全ての学年で作り出すことに難しさがある。校内研修などを行い、全職員で本校の実態に合った学び合いの形を模索する。	A	A	B	A	○各学年とも少人数であることが双方向的な視点に立つ授業を展開しなくてはならない必然性がある。1年生の早期から生徒同士が学び合う環境を作り出せるように、今後も研修を行い、深い学びへと生徒を導いていく。
	2 生徒にとって魅力ある学習環境が整備されていますか。	③ 自分の学校が好きだと感じている生徒が70%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学校行事、部活動を活性化し、個々の生徒の実態に応じて、学校生活や進路などについてきめ細かに支援する。 	A	C	○夏季休業中の登校日に生徒全員参加のイベントを開催。今後も部活、学校行事を通して、アットホームな生活環境の構築に努める。	A	B	○季節感のある行事の導入や、部活動奨励を行い、生徒の学校帰属意識を高めるとともに、生徒に寄り添う指導を心がけ、生徒へのきめ細かな支援を行う。
	3 生徒の教育再生の場として、学習姿勢のあり方を指導するとともに、社会性を育てていますか。	④ 不登校から立ち直り、継続して登校できるようになった生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校等で学習機会に恵まれなかった生徒に、登校しやすい環境づくりを心掛け、基礎学力、社会性を、4年間かけて養うことで、自ら考え、前向きに生きる姿勢を身につけさせる。 	A	A	○不登校経験を持つ新入生も欠席することなく登校できている。不登校気味の生徒も、教員間の連携のもと改善された。今後も不登校傾向を早くつかみ、職員全員で協力し対応にあたる。	A	A	○生徒の家庭環境や現在の様子について細かに観察を行い、職員連携のもと、早期の改善を目指した指導を継続していく。仕事と勉強との両立に向け、適切なアドバイスや心の支援を全職員で行い、4年後のそれぞれの進路に向けた前向きな姿勢を養っていく。
4 対外的な行事等に積極的に参加するよう支援していますか。	⑤ 西毛地区体育大会やその他の大会、各種検定等に積極的に参加している生徒が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動の日常活動を支援し、対外的な大会に積極的に参加するように生徒を励ます。 ・英語検定、漢字検定、ビジネス文書検定、情報処理検定等を受検する機会を設ける。 	A		○1年生の内から部活動参加を積極的に進め、校外の大会参加を促していく。 ○全校集会で検定合格の表彰をし、検定受検に向けた雰囲気作りをしていく。	B		○1年生の部活動への参加がやや少ないので、部活動以外にも自己表現できる場面を設定していく。特に部活動の苦手な生徒には、生活体験発表などへの取組を強化していく。 ○各種検定への参加人数が増えるよう、これまで以上にきめ細かな段階的指導を工夫する。	

針			方 策	平成28年度 第1回 点検・評価		平成28年度 第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	5 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑥ 生徒の実態を踏まえて、習熟度に応じた指導を実施し、学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上いる。	・生徒の習熟度や諸事情に応じた個別的な指導を心掛け、アクティブラーニングを積極的に用いた授業改善を図る。 ・漢字・計算ドリル等の補助教材を作成して、反復・継続的指導を行う。	A	B	○定期的に授業改善に向けた会議を開き、生徒個人個人の特性を把握することを通して授業展開についての意見を出し合い、アクティブラーニング導入の糸口を探していく。 ○補助教材を作成し、個々の生徒に対応した取り組み課題を設定する。	A	B	○それぞれの学年に応じたアクティブラーニングの手法等についての研修を行う。特にグループ学習については早期からの導入について研修を重ねていく。 ○今後も生徒の特性に関する協議を続け、生徒の特性をつかむと共に、個々人に合わせた補助教材を作成し学習意欲高揚を図る。
	6 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 漢字テストを1年間に6回実施し、正解率8割以上の生徒が60%以上いる。	・国語及びLHR活動の時間を使い、全学年で社会人に必要な漢字の習得に取り組む。	C		○漢字テスト上位者を全校集会で表彰し、漢字学習への意欲を喚起すると共に、個別に漢字テストに向けた援助を行う。	C		○個人個人が漢字テストでの目標点数を設定するなど、生徒自身が積極的に取り組みやすい環境を作る。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	7 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧ 適切な指導が行えるように、毎日の打合せや休み時間等に、生徒に関する情報交換を行い職員間の連携を図る。	・生徒指導上の重要な情報は、その都度全職員が共有する。 ・生徒のよい変化に特に注視し、職員で情報を共有し、その他の場面でもいかなるよう支援する。	A		○生徒の状況を毎日の打合せの中で共有し、必要に応じて全職員で問題解決に向けた行動を起こす。 ○生徒の変化について日頃から注視すると共に、良い変化を導き出せるような支援の仕方を研修する。	A		○生徒の日常の変化に注視し、毎日の打合せの中で確認をする。 ○授業以外でアットホームな雰囲気作りのための行事をつくり、生徒が自分の気持ちを表現しやすいような体制を作る。
		⑨ いじめの未然防止、早期発見及び早期対処に努め、解消率が100%である。	・SHRや授業、部活動等あらゆる機会において生徒の様子を観察し、話の中からいじめの兆候をつかみ、対処する。	A		○生徒それぞれの特性を全職員で共有し、必要な支援をすることで、生徒同士のコミュニケーションが取りやすい環境をつくる。	A		○LHR等の時間を活用し、いじめを許さない雰囲気作りに努めるとともに、授業等でグループによる活動場面を作り、生徒が相互に理解を深められる場面を作る。
	8 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑩ 出席状況良好の者の数が80%以上である。	・個々の事情を理解し、個人それぞれにあった1日の過ごし方について一緒に考えていく。 ・家庭との連携を密にし、家庭においても指導をしてもらう。	D		○特定の生徒が欠席遅刻を繰り返しているため、個々の生活状況について把握し、必要なアドバイスを行う。 ○必要に応じ、家庭とも連絡をとり、仕事と学校との両立ができるよう支援する。	C		○生徒の生活状況把握に努め、必要に応じ個人面談の機会を設け、生活についてのアドバイスをする。 ○家庭での支援が行き届かない場合は全職員で生徒支援方法について協議し支援体制を構築する。

針			方 策	平成28年度 第1回 点検・評価		平成28年度 第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	⑪ 上級学年の生徒を中心に、進路を考える機会を年3回以上設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRまたは「総合的な学習の時間」などで進路学習を実施する。 ・進路に関する最新情報入手し、提供できるようにしておく。 ・外部講師等による、進学や就職についての講演を実施する。 	D□		<ul style="list-style-type: none"> ○LHR等を使い大学見学の勧めや就職についての具体的な手順等について個別に対応する。 ○今年度は就職を希望する生徒が多いので、ハローワークとの連携をこれまで以上に図る。 ○進路講演会を5月に実施。進路選択は人生の選択であるなど、示唆に富む内容であった。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、就職支援を主として対応してきたが、個々の家庭事情が複雑であり、うまく就職活動に繋ぐことができなかった。車の運転免許取得に関する情報や取得できなかった場合の今後の生活設計など幅広く対応できるようハローワークとの連携も含めて対応していきたい。
		⑫ 生徒の進路希望について、理解している保護者が60%以上いる。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回以上の保護者面談と進路講演会や「定時制便り」の進路指導特集号等により、進路選択について共に考え、質問に丁寧に対応する。 	C□	D	<ul style="list-style-type: none"> ○進路講演会などの行事に保護者の参加を呼びかけると共に、学校から家庭への情報提供の場としても活用していく。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ○進路希望がはっきりしていない生徒が低学年ほど多いので、進路講演会などへ保護者参加を呼びかけると共に、「定時制便り」に進路関係の情報を掲載するなど、定期的な情報提供に努める。
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬ 在校生の就業率が70%以上である。(アルバイトを含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の希望にそった就職・進路情報を提供して勤労意欲を高め、職業適性についてじっくり考えられるよう指導する。 ・雇用主と連携して、協力関係を保つ。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ○特に新生生に対し、将来の職につながるような就労体験ができるようにアドバイスをする。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ○中学時代に不登校を経験している生徒が多く在籍している点を踏まえ、社会参加への手順を自分で考えられるような指導を工夫し、高校卒業後の自分が想像できるような支援をする。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信していますか。	⑭ 職員が本校周辺の中学校を訪問して、学校説明、案内等を年1回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期に職員が分担して各中学校を回り、本校定時制のよさをアピールする。 	未			A		<ul style="list-style-type: none"> ○2回の中学校訪問を実施した。中学校の様子を細かに聞き取り、また本校生徒の具体的な様子等を話し、本校定時制への進学を勧めてもらえるようにする。
		⑮ 家庭や地域社会に情報を発信するため「定時制便り」を年6回以上発行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「定時制便り」を通して保護者や地域、雇用主等に、学校の状況や生徒の活動について理解を深めてもらう。 	未		<ul style="list-style-type: none"> ○各行事を写真で撮り生徒個々の活躍が分かるよう紙面構成をした「定時制便り」を作成し、保護者がより身近に感じられるものにする。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ○各行事における生徒の活躍を紙面に載せ、保護者にも見て楽しんでもらえる紙面構成にしている。今後も各行事を積極的に取材し、紙面の充実を図る。
	12 家庭、地域社会の教育力を活用していますか。	⑯ 保護者や地域社会の人を講師とした講演会などを年3回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・開校記念講演、交通安全教室、防災訓練、保健講話等の各学校行事で、地域の外部講師を招聘する。 	未		<ul style="list-style-type: none"> ○地域の外部講師を招き、藤岡の歴史について深く学び、また、藤岡警察署及び消防署に依頼し、交通安全教室、救命救急講習会を実施した。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練においては起震車にて大地震を疑似体験することができた。今後も機会があればこのような体験型の企画について検討していきたい。